

国内の状況

- 2020年以降、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、観光需要が大きく落ち込んだ。
- 2024年の国内旅行者数はコロナ禍前の水準までの回復には至っていないが、消費額はコロナ禍前よりも伸長した。
- インバウンドは、旅行者数及び消費額がコロナ禍前よりも伸長した。

●国内旅行者数

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	伸び率 (2024/2019)
全旅行者数	5.9億人	2.9億人	2.7億人	4.2億人	5.0億人	5.4億人	▲8.0%
宿泊旅行者数	3.1億人	1.6億人	1.4億人	2.3億人	2.8億人	2.9億人	▲5.9%
日帰り旅行者数	2.8億人	1.3億人	1.3億人	1.9億人	2.2億人	2.5億人	▲10.4%

資料：観光庁「旅行・観光消費動向調査」

●国内旅行1人1回当たりの消費額

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	伸び率 (2024/2019)
全旅行消費額	37,355円	33,994円	34,221円	41,069円	44,034円	46,585円	+24.7%
宿泊旅行消費額	55,054円	48,361円	49,270円	59,042円	63,253円	69,362円	+26.0%
日帰り旅行消費額	17,334円	16,596円	17,348円	18,532円	19,027円	19,533円	+12.7%

資料：観光庁「旅行・観光消費動向調査」

●インバウンド

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	伸び率 (2024/2019)
旅行者数	3,188万人	412万人	25万人	383万人	2,507万人	3,687万人	+15.7%
消費額	4.8兆円	0.7兆円 (試算値)	0.1兆円 (試算値)	0.9兆円 (試算値)	5.3兆円	8.1兆円	+68.8%
1人1回当たりの消費額	15.9万円	18.5万円 (試算値)	-	23.5万円 (試算値)	21.3万円	22.7万円	+43.3%

※2021年の1人1回当たりの消費額は公表されていない

資料：観光庁「インバウンド消費動向調査」

現堺観光戦略 KPI進捗状況

- 国内の状況と同様にコロナ禍の影響を受け、2021年度来訪者数（市外居住の60分以上滞在者）が大きく落ち込む。
- 大仙公園エリア、環濠エリア共に2021年度から2024年度まで来訪者数に大きな変動はない。
- リピート率は、両エリア共に2019年度以降横ばいから微減傾向。
- 消費額単価は2021年度に4割減、以降横ばいから微増傾向。
- 2024年度時点でKPI達成までの進捗は芳しくない。

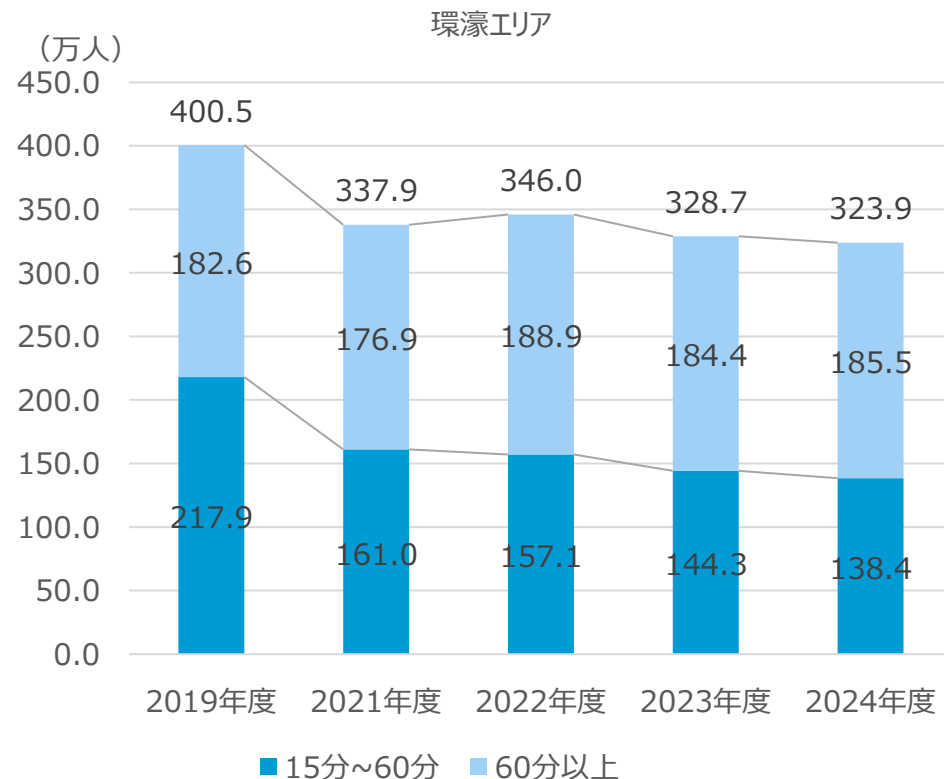
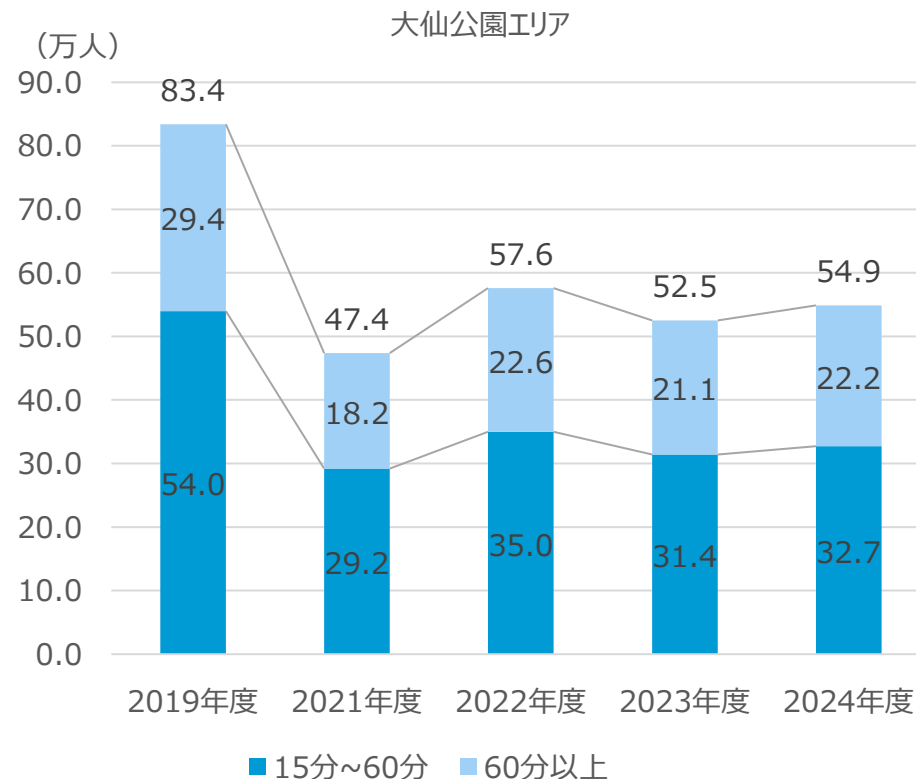
	2019年度	※2021年度	※2022年度	※2023年度	2024年度	2025年度 (KPI)
来訪者数 (大仙公園エリア)	29.4万人	18.2万人	22.6万人	21.1万人	22.2万人	60万人
来訪者数 (環濠エリア)	182.6万人	176.9万人	188.9万人	184.4万人	185.5万人	300万人
リピート率 (大仙公園エリア)	22%	31%	28%	25%	25%	30%
リピート率 (環濠エリア)	36%	42%	41%	40%	40%	45%
観光消費額単価	16,355円	9,345円	8,972円	9,424円	10,187円 (4月～11月)	20,000円

※新型コロナウイルスの期間（2023年5月から5類感染症へ移行）

堺市の現状（来訪者①）

■ 時間別の来訪者数

- 15分以上の滞在者は、大仙公園エリアでは2021年度に大きく落ち込んだ後、微増傾向であるが、2024年度は54.9万人で2019年度より約35%減少、環濠エリアでは2021年度に落ち込んだ後、横ばいであるが、2024年度は323.9万人で2019年度より約19%減少した。
- 60分以上の滞在者は、大仙公園エリアでは15分以上の滞在者と同様の傾向であり、2024年度は22.2万人で2019年度より約25%減少、環濠エリアでは2021年度に微減、その後横ばいであり、2024年度は185.5万人で2019年度と比べて横ばい。
- 15分以上60分未満の滞在者は、大仙公園エリアでは15分以上の滞在者と同様の傾向であり、2024年度は32.7万人で2019年度より約39%減少、環濠エリアでは2021年度に大きく落ち込んだ後減少傾向であり、2024年度は138.4万人で2019年度より約36%減少した。



※みなし通過者 = 15分以内の滞在者除く

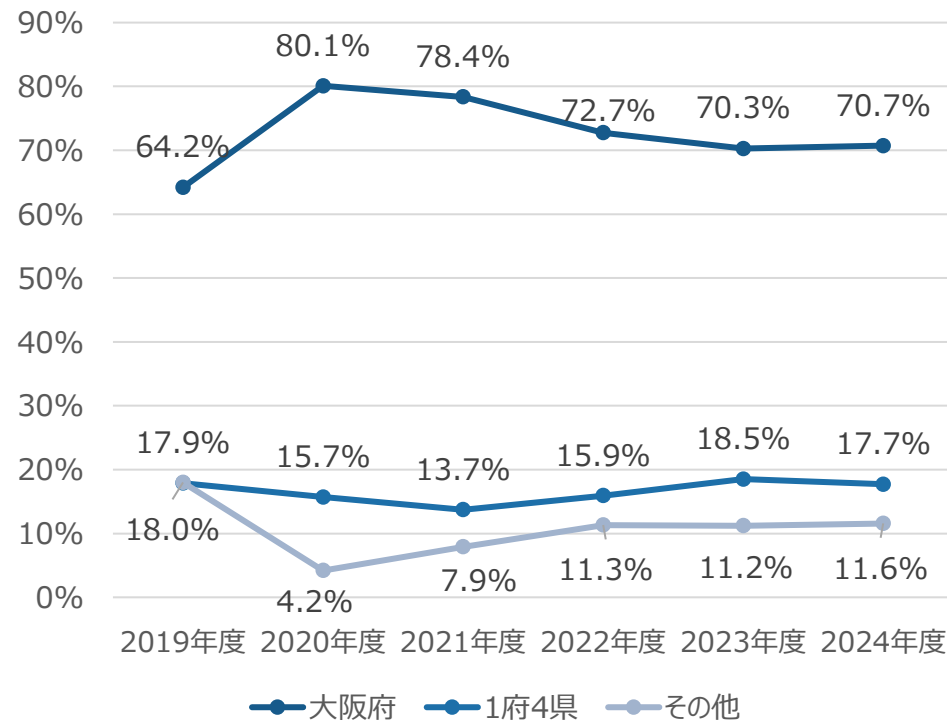
資料：携帯電話事業者の位置情報ビッグデータに基づく全人口推計拡大推計

堺市の現状（来訪者②）

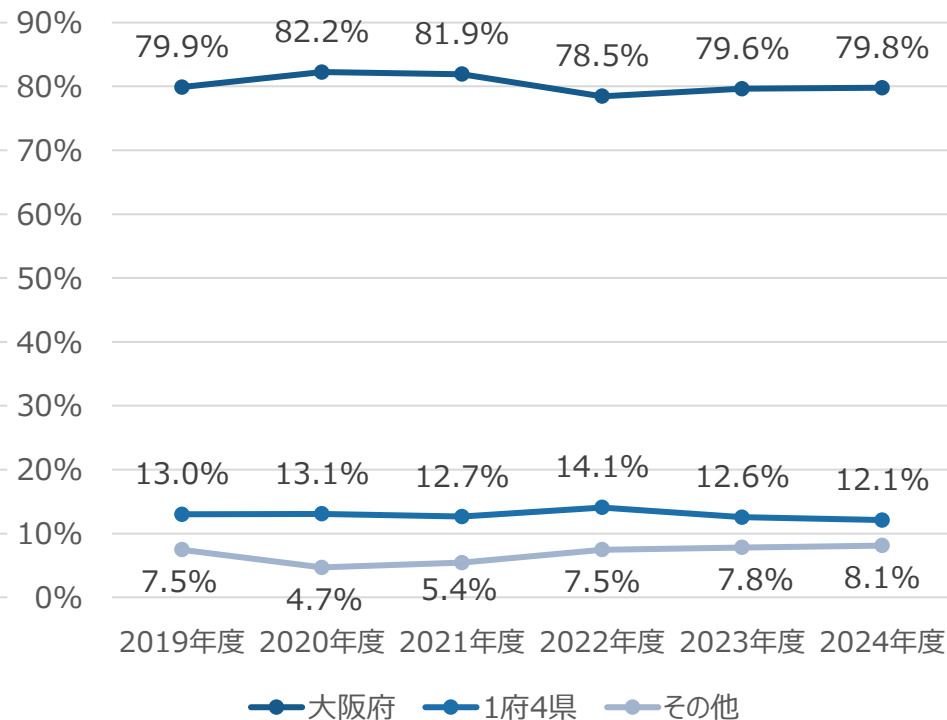
■ 来訪者の居住地

- 2府4県以外からの来訪者は、大仙公園エリアでは2019年度の18.0%が2020年度に大きく落ち込み、2022年度以降は横ばいで、2024年度は11.6%と2019年度より6.4ポイント低下、環濠エリアでは2019年度の7.5%が2020年度に落ち込み、2021年度からは微増傾向、2024年度は8.1%と2019年度より0.6ポイント上昇した。
- 1府4県からの来訪者は、2024年度と2019年度を比較すると大仙公園エリア（17.7%）で0.2ポイント低下、環濠エリア（12.1%）で0.9ポイント低下しているが、この間ほぼ横ばいで推移している。
- 大阪府内からの来訪者は、大仙公園エリアでは2024年度70.7%であり、2019年度より6.5ポイント上昇しているが2022年度以降は横ばい、環濠エリアでは2024年度79.8%であり、2019年度から80%前後の横ばいで推移している。

大仙公園エリア



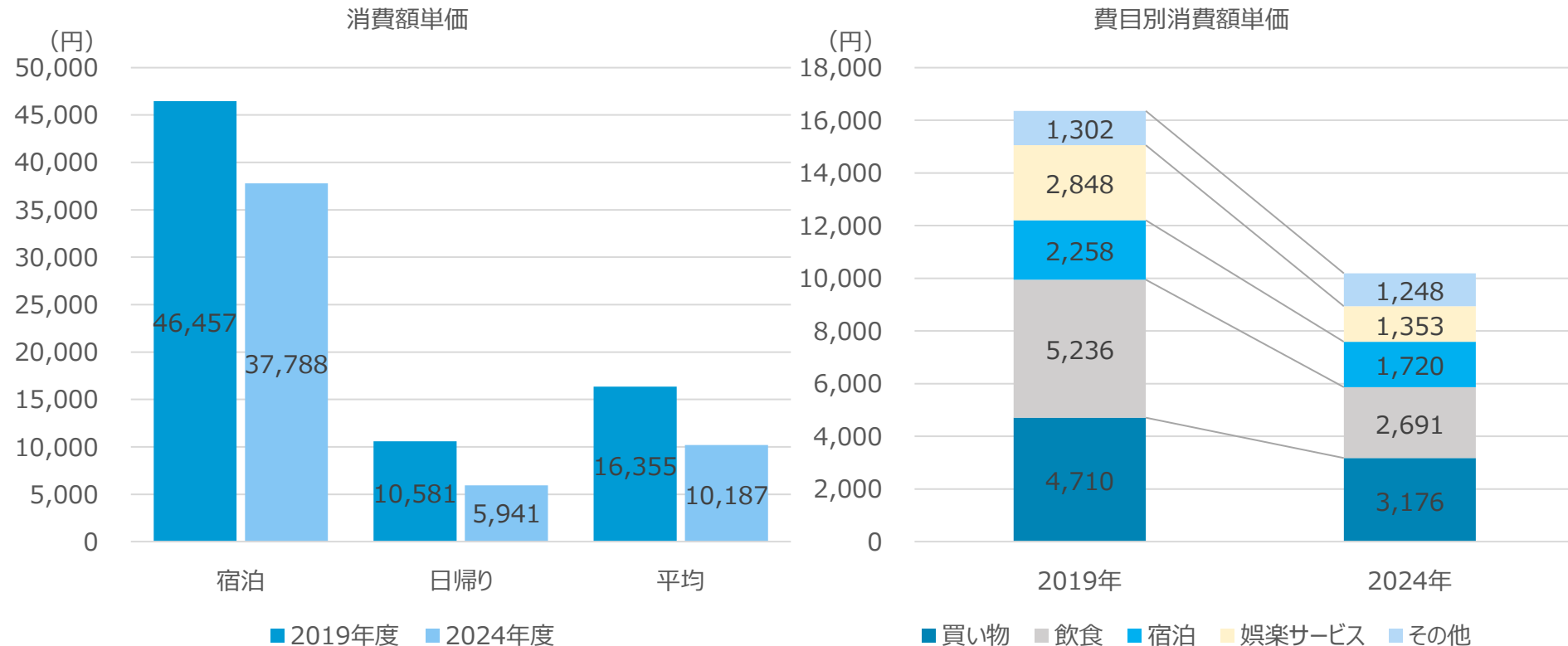
環濠エリア



堺市の現状（消費額単価①）

■ 費目別消費額単価

- KPIである消費額単価は、2024年度で日帰り、宿泊、平均の全てにおいて2019年度より減少している。
- 2024年度の宿泊来訪者の一人当たり消費額単価は、同年度日帰り来訪者の6倍以上である。
- 費目別消費額単価は、2019年度では上位から飲食、買物、娯楽サービス、宿泊の順だったが、2024年度では買物、飲食、宿泊、娯楽サービスの順になった。
- 2024年度と2019年度を比較すると全ての項目で減少しており、減少率は娯楽サービスで約53%、飲食で約49%、買物で約33%、宿泊で約24%であるが、減少額では飲食費が最も大きく約2,500円である。

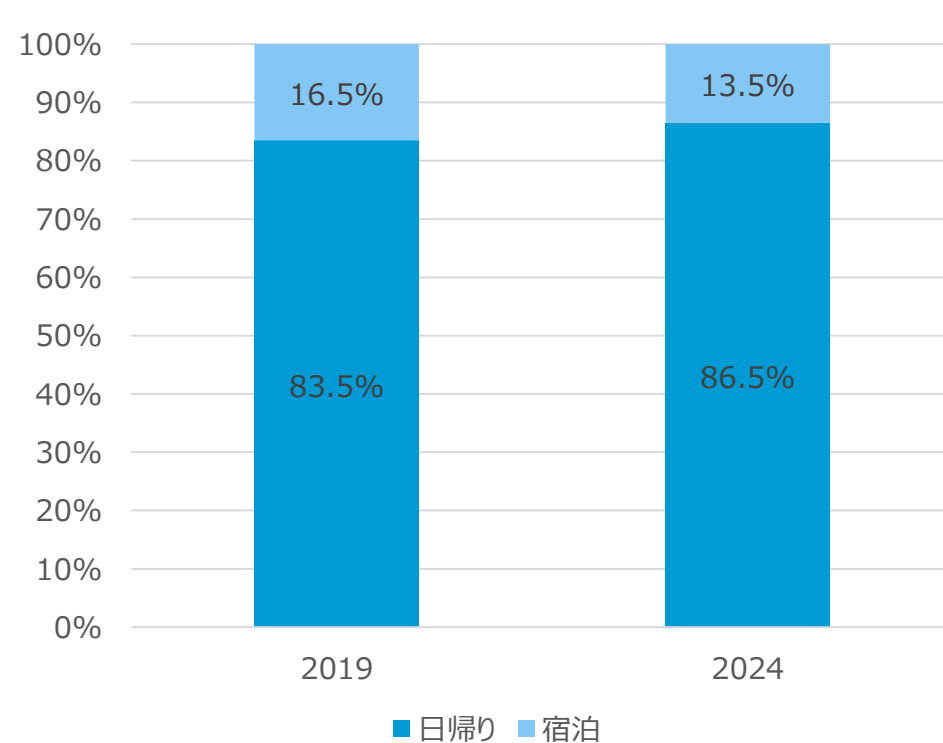


堺市の現状（消費額単価②）

■ 日帰りと宿泊

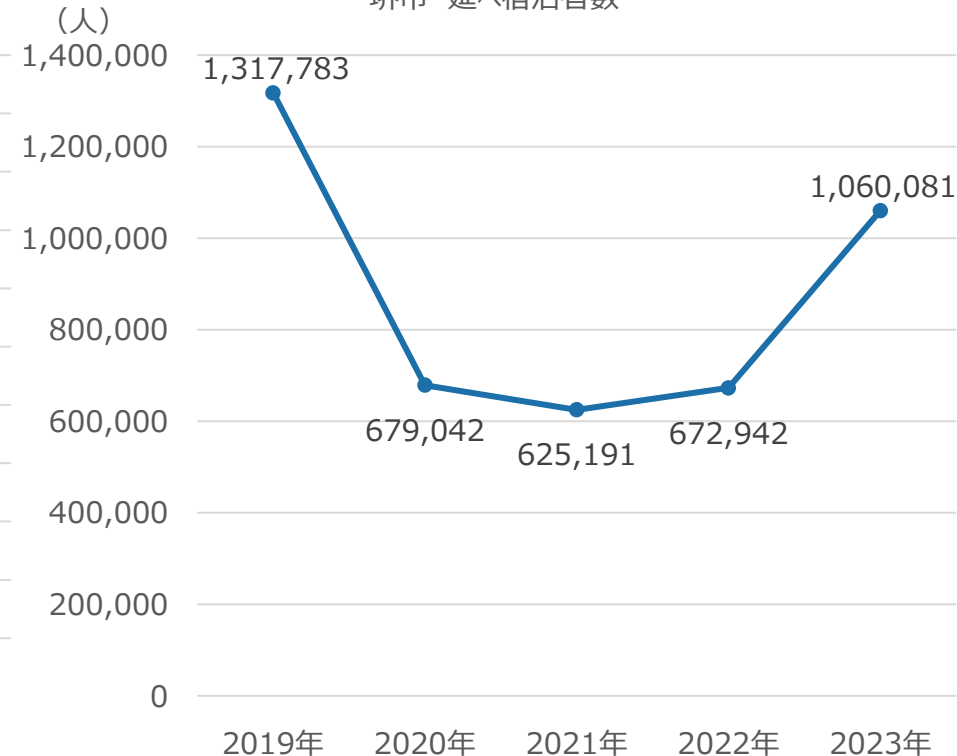
- 堺市の来訪者のうち、2024年度の日帰りの割合が2019年度より上昇している。
- 堺市の延べ宿泊者数は2020年度に大きく落ち込み、その後2023年に1,060,081人まで回復したが、2023年と2019年（1,317,783人）を比較すると19.6%減少した。

堺市来訪者の宿泊と日帰りの割合



資料：堺市 国内旅行者に対するwebアンケート調査に基づく推計

堺市 延べ宿泊者数

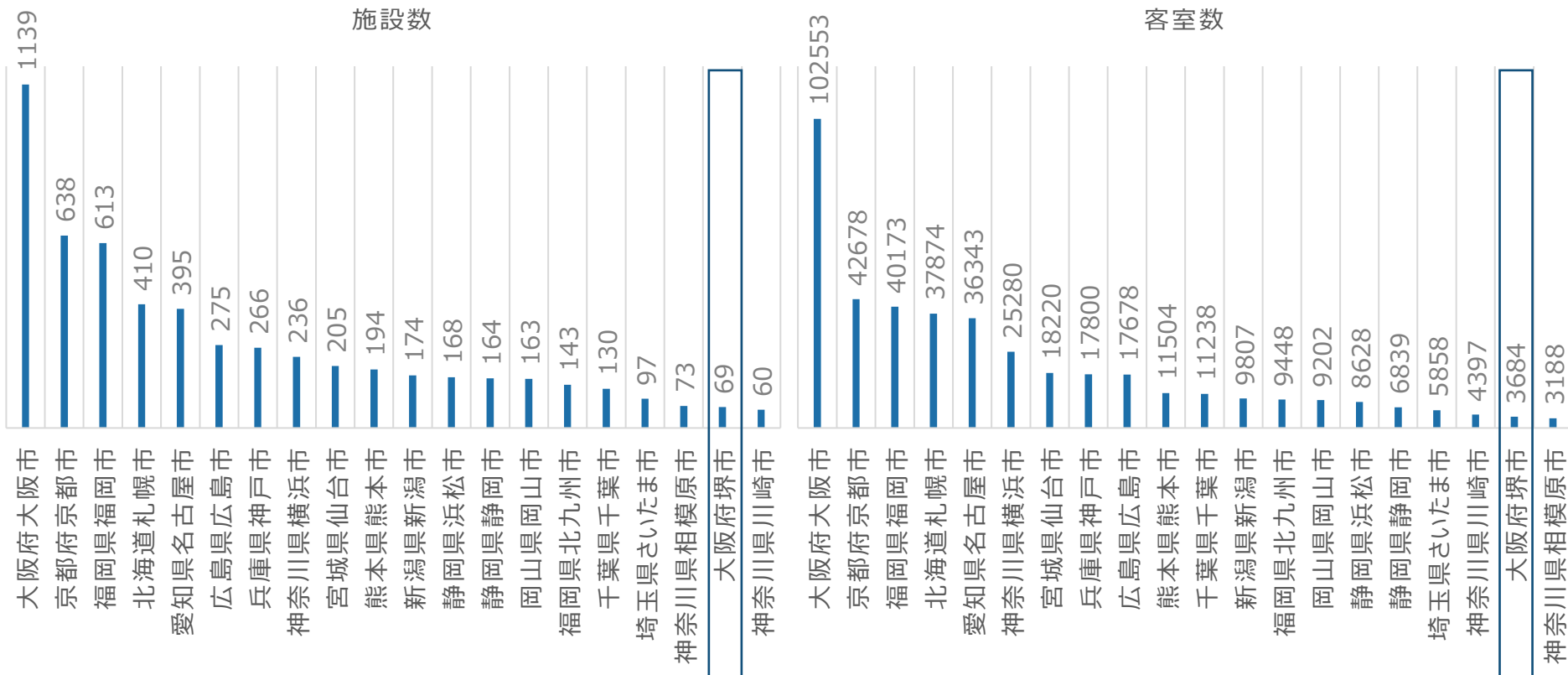


資料：大阪府「観光統計調査」

堺市の現状（消費額単価③）

■ 施設数及び客室数

施設数及び客室数は、政令指定都市の中で下から2番目である。

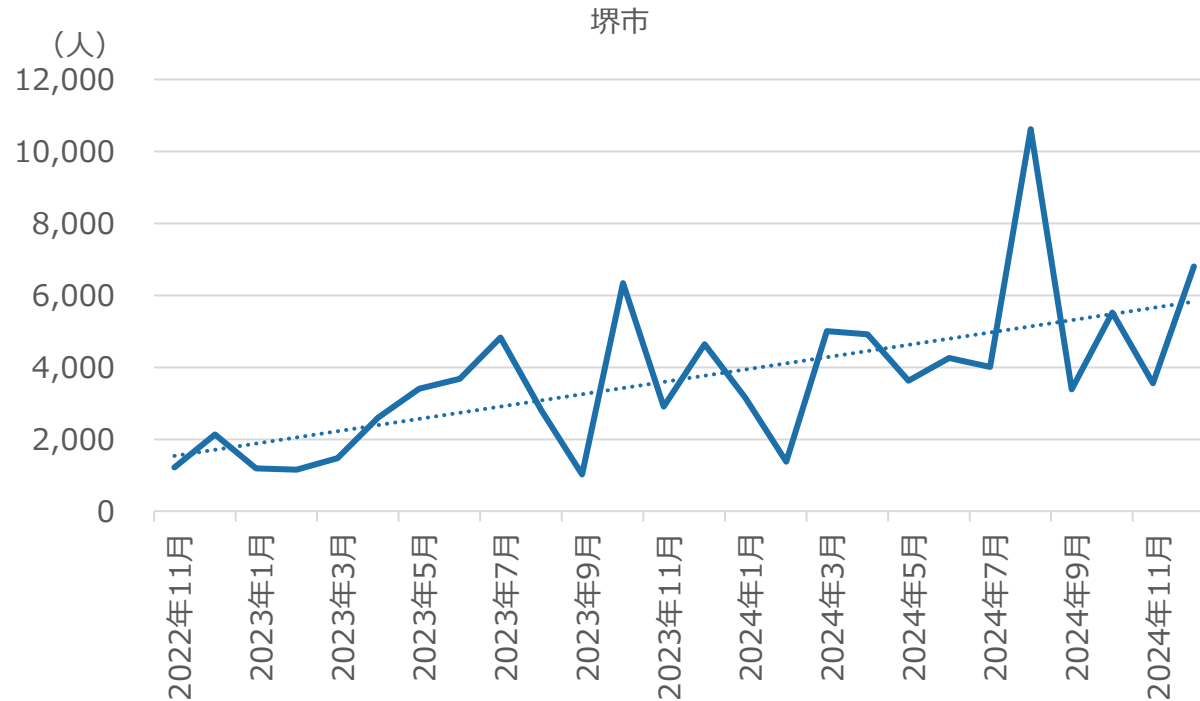


資料：厚生労働省「衛生行政報告例」

堺市の現状（インバウンド）

■ 外国人来訪者数

水際対策撤廃後、堺市の外国人来訪者数は増加傾向にある。2024年に堺市に訪れた外国人旅行者は5.6万人である。（大阪市への来訪者は1892.2万人）

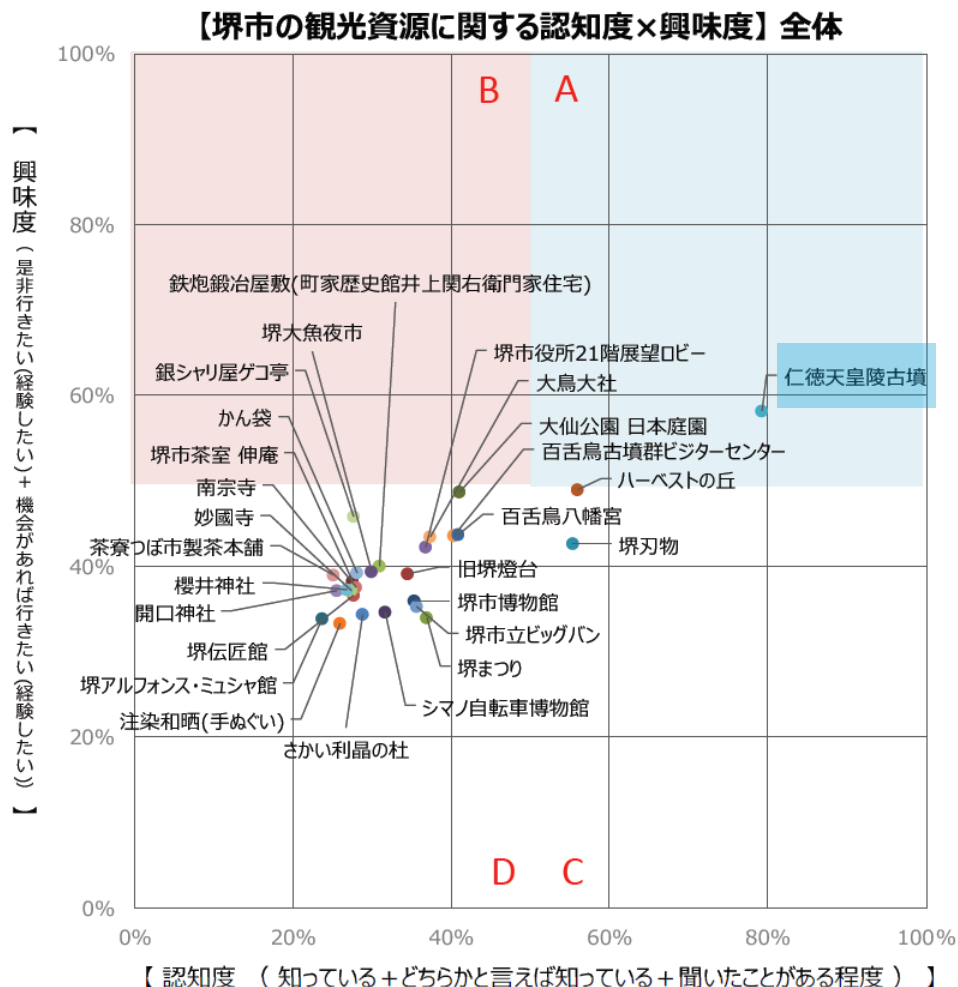


資料：位置情報ビッグデータに基づく全人口推計拡大推計

堺市の現状（認知度・興味度）

■ 堺市内の施設・スポット

認知度と興味度の評価分析によると、仁徳天皇陵古墳の認知度・興味度は高いが、その他の施設やスポットは認知度・興味度が低い結果となった。



A象限：よく知られていて興味度も高い

B象限：興味度は高いがあまり知られていない

C象限：よく知られているが興味度が低い

D象限：興味度も低くあまり知られていない